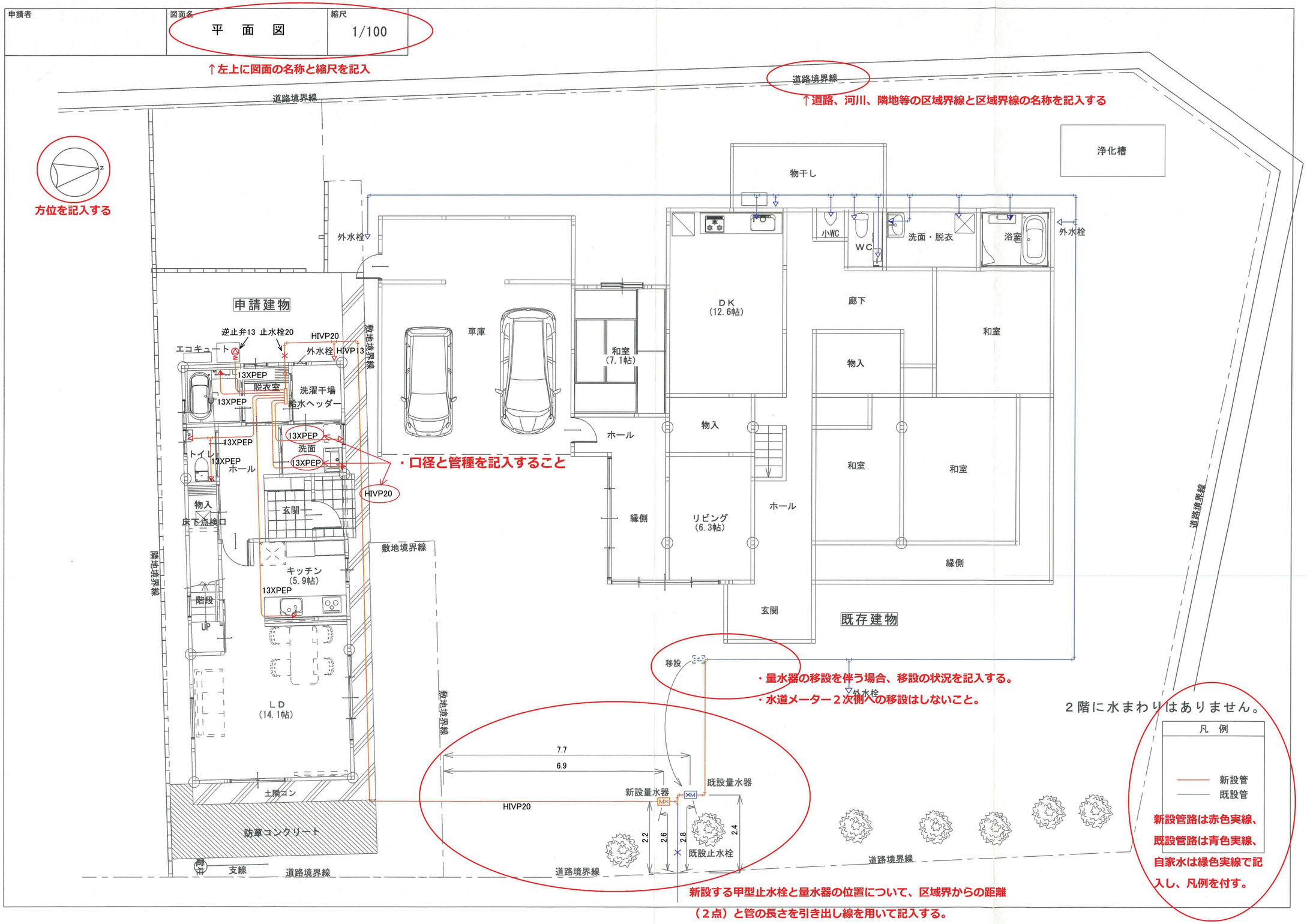
位置図　S=1/1,500

利用者：雲南市水道局

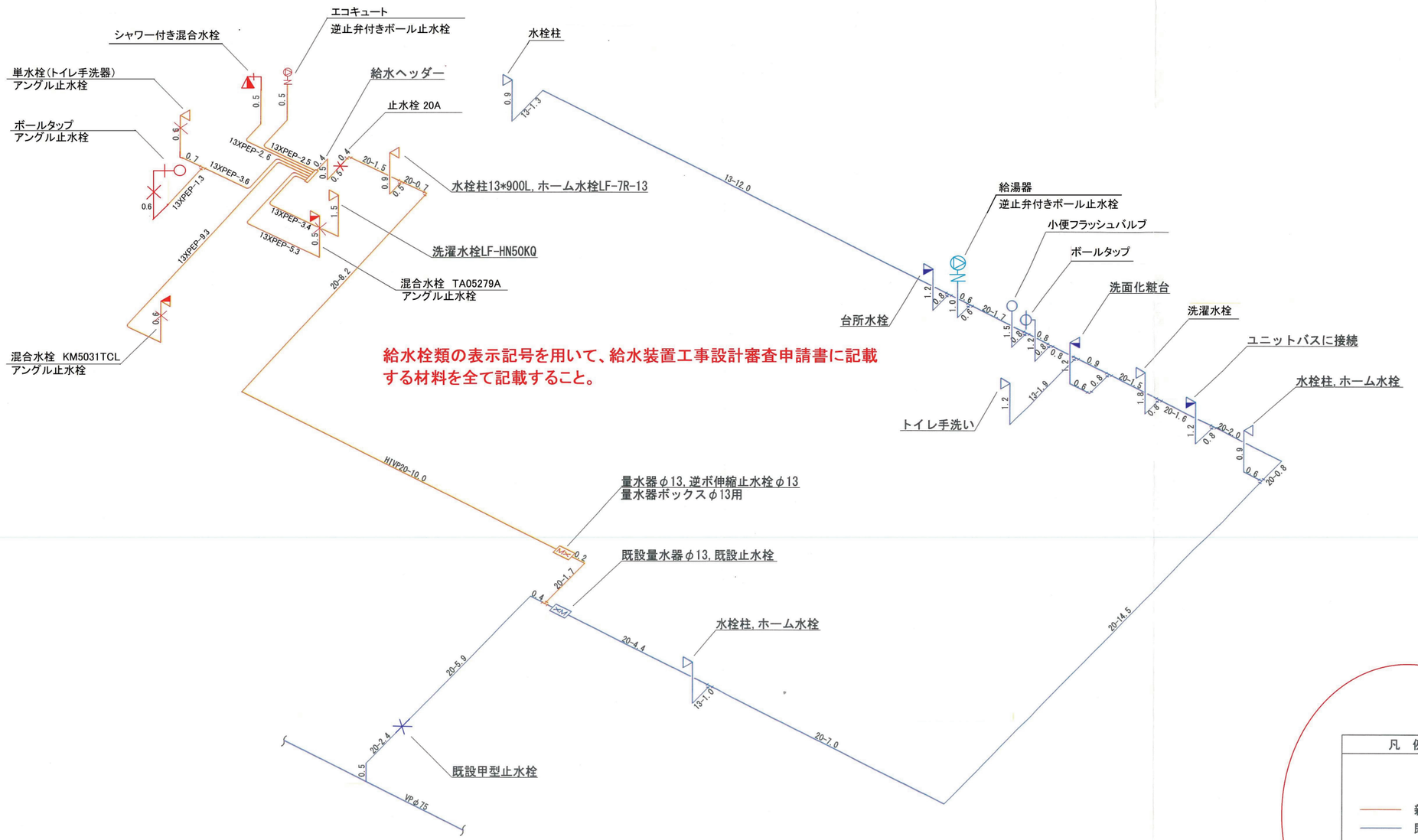
雲南市大東町　飯田付近

縮尺 1 / 1,500　45m


申請者
図面名
平　面　図
縮尺
1/100
↑左上に図面の名称と縮尺を記入
道路境界線
↑道路、河川、隣地等の区域界線と区域界線の名称を記入する
方位を記入する
浄化槽
物干し
外水栓
小WC
WC
洗面・脱衣
浴室
申請建物
逆止弁13 止水栓20
HIVP20
エコキュート
外水栓 HIVP13
敷地境界線
13XPEP
脱衣室
洗濯干場
給水ヘッダー
トイレ
洗面
ホール
・口径と管理を記入すること
物入
床下点検口
玄関
キッチン
(5.9帖)
階段
UP
LD
(14.1帖)
土間コン
防草コンクリート
支線
車庫
和室
(7.1帖)
ホール
DK
(12.6帖)
廊下
物入
和室
縁側
リビング
(6.3帖)
既存建物
移設
外水栓
・量水器の移設を伴う場合、移設の状況を記入する。
・水道メーター２次側への移設はしないこと。
２階に水まわりはありません。
7.7
6.9
新設量水器
既設量水器
2.2
2.6
2.8
2.4
既設止水栓
凡　例
新設管
既設管
新設管路は赤色実線、
既設管路は青色実線、
自家水は緑色実線で記
入し、凡例を付す。
新設する甲型止水栓と量水器の位置について、区域界からの距離
（２点）と管の長さを引き出し線を用いて記入する。

申請者	図面名	縮尺
	立　面　図	NoScale

↑左上に図面の名称と縮尺を記入（ノンスケールでよい）



給水栓類の表示記号を用いて、給水装置工事設計審査申請書に記載する材料を全て記載すること。

凡　例

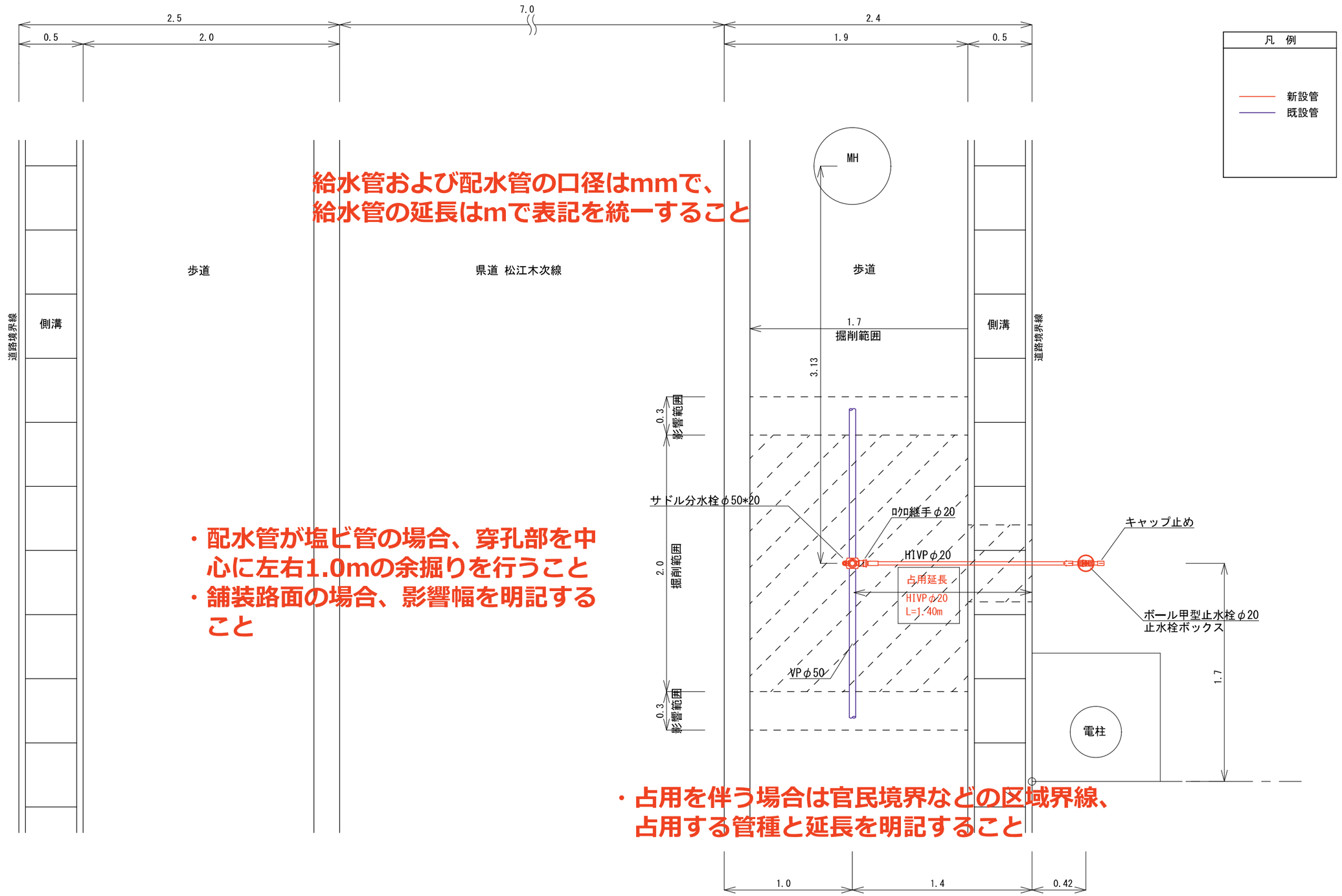
新設管

既設管

新設管路は赤色実線、既設管路は青色実線、自家水は緑色実線で記入し、凡例を付す。

申請者	図面名	縮尺
	分岐平面図	1/30

↑左上に図面の名称と縮尺を記入



給水管および配水管の口径はmmで、
給水管の延長はmで表記を統一すること

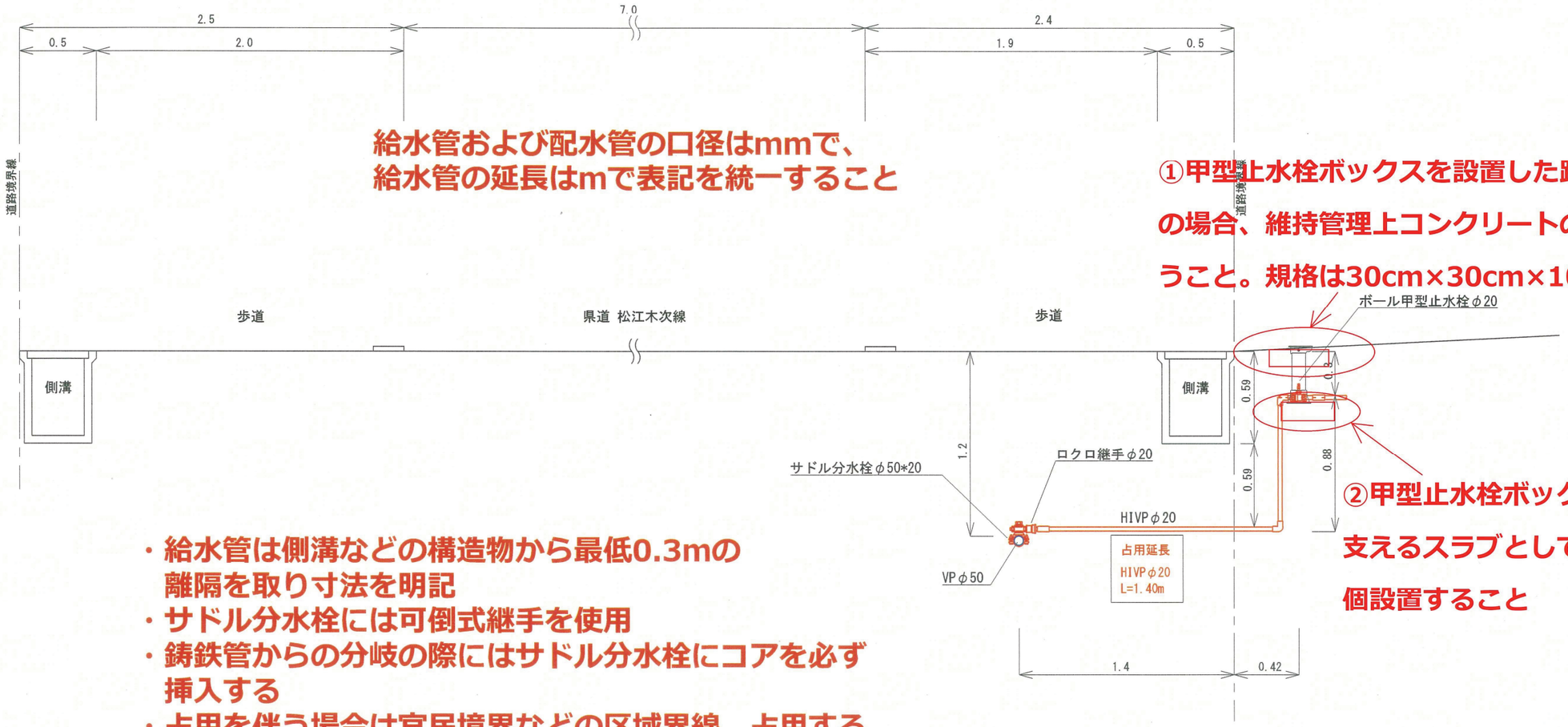
・配水管が塩ビ管の場合、穿孔部を中心に左右1.0mの余掘りを行うこと
・舗装路面の場合、影響幅を明記すること

・占用を伴う場合は官民境界などの区域界線、占用する管種と延長を明記すること

申請者	図面名	縮尺
	分岐断面図	1/30

↑左上に図面の名称と縮尺を記入

給水管および配水管の口径はmmで、
給水管の延長はmで表記を統一すること



①甲型止水栓ボックスを設置した路面等が未舗装の場合、維持管理上コンクリートの巻き立てを行うこと。規格は30cm×30cm×10cmとする

②甲型止水栓ボックスの荷重を支えるスラブとしてレンガを2個設置すること

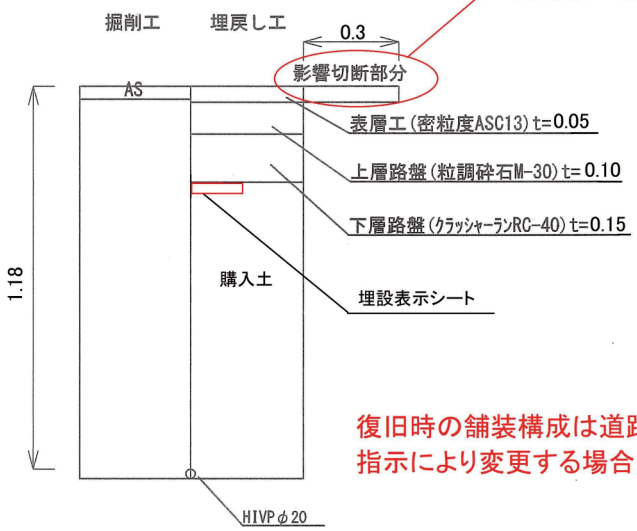
・給水管は側溝などの構造物から最低0.3mの離隔を取り寸法を明記
・サドル分水栓には可倒式継手を使用
・鋳鉄管からの分岐の際にはサドル分水栓にコアを必ず挿入する
・占用を伴う場合は官民境界などの区域界線、占用する管種と延長を明記すること

凡　例
新設管
既設管

申請者	図面名	縮尺
	土工図	1/20

左上に図面の名称と縮尺を記入

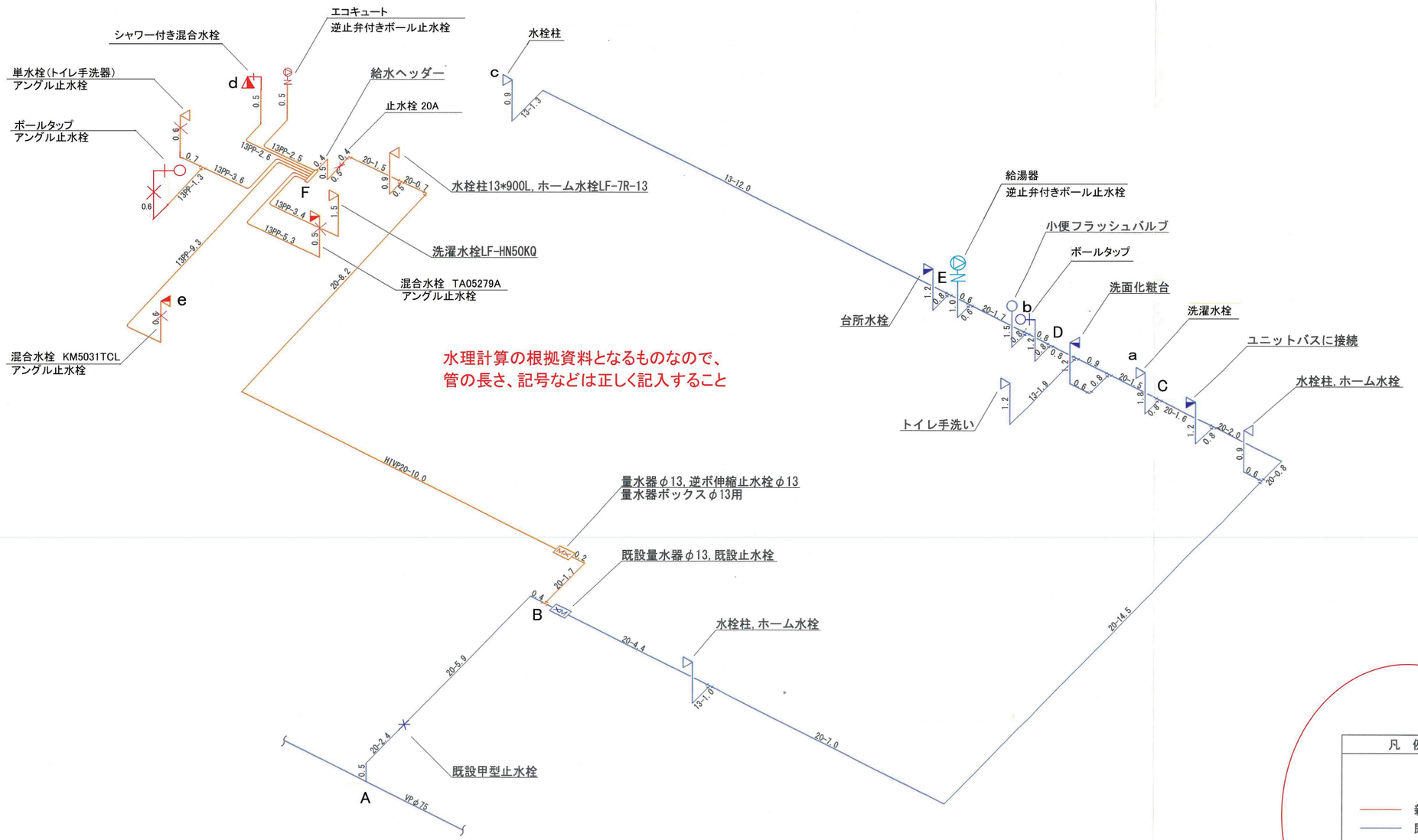
影響切断部分は舗装構成の厚さ以上とする



復旧時の舗装構成は道路管理者の指示により変更する場合がある

申請者	図面名	縮尺
	水理計算用図面	NoScale

↑左上に図面の名称と縮尺を記入（ノンスケールでよい）



水理計算の根拠資料となるものなので、
管の長さ、記号などは正しく記入すること

凡 例

新設管
既設管

新設管路は赤色実線、既設管路は青色実線、自家水は緑色実線で記入し、凡例を付す。

水理計算書（計算例）

工事名	島根太郎邸新築工事
工事施工場所	雲南市三刀屋町給下〇〇〇番地
給水の用途	一般家庭用
給水方式	直結直圧式

（１）計算条件

現地配水管の水圧	0.62MPa
戸数	２戸
新築住宅の給水栓数	８栓
既設住宅の給水栓数	１１栓
合計水栓数	１９栓
同時使用給水栓数	５栓

（２）計画使用水量の算出

新築住宅の計画使用水量

No.	同時使用給水用具	口径 (mm)	計画使用水量 (L/分)
1	キッチン（ｅ）	13	12.0
2	シャワー（ｆ）	13	8.0
	合計		20.0

既設住宅の計画使用水量

No.	同時使用給水用具	口径 (mm)	計画使用水量 (L/分)
1	洗濯水栓（ａ）	13	12.0
2	トイレ（ボールタップ；ｂ）	13	12.0
3	水栓柱（ｃ）	13	15.0
	合計		39.0

同時使用水量　59.0　L/分

（３）口径の決定算出

新築住宅

区間	流量 L/分	口径 mm	動水勾配 ‰	延長 m	損失水頭 m	立上げ高さm	所要水頭 m	備考
キッチン（ｅ）	12.0	13	給水用具の損失水頭		0.80		0.80	①
e-F	12.0	13	229	9.30	2.13	0.60	2.73	②
シャワー（ｆ）	8.0	13	給水用具の損失水頭		0.40		0.40	③
d-F	8.0	13	108	2.60	0.28	0.50	0.78	④

①＋②＞③＋④　よってF点での所要水頭は3.53mとなる

F-B	20.0	20	77	23.60	1.81	0.50	2.31	
	20.0	20	止水栓の直管換算長		0.10		0.10	
	20.0	20	水道メーターの直管換算長		3.00		3.00	
						計	5.41	

e-B間の所要水頭は3.53+5.41＝8.94m

既設住宅

区間	流量 L/分	口径 mm	動水勾配 ‰	延長 m	損失水頭 m	立上げ 高さm	所要水頭 m	備考
水栓柱（ｃ）	15.0	13	給水用具の損失水頭		1.40		1.40	①
ｃ-E	15.0	13	336	13.30	4.47	0.90	4.56	②
D-E	15.0	20	48	3.10	0.14		0.14	③
トイレ（ボールタップ；ｂ）	12.0		給水用具の損失水頭		0.80		0.80	④
ｂ-D	12.0	13	229	0.80	0.18	1.20	1.38	⑤
C-D	27.0	20	132	3.20	0.42		0.42	⑥
洗濯水栓（ａ）	12.0	13	給水用具の損失水頭		0.80		0.80	⑦
a-C	12.0	13	229	0.80	0.20	1.80	0.81	⑧

①＋②+③＋⑥＞④+⑤、⑦+⑧　よってC点での所要水頭は6.52ｍとなる

C-B	39.0	20	253	30.30	7.67	0.00	7.67	
	39.0	20	止水栓の直管換算長		0.10		0.10	
	39.0	20	水道メーターの直管換算長		3.00		3.00	
						計	10.77	

c-B間の所要水頭は6.52+10.77＝17.29ｍ＞e-B間の所要水頭　よってB点での所要水頭は17.29ｍ

B-A	59.0	20	527	8.30	4.37	0.50	4.87	
	59.0	20	止水栓の直管換算長		0.10		0.10	
	59.0	20	分水栓の直管換算長		0.50		0.50	
						計	5.47	

よってA点での所要水頭は17.29+5.47＝22.76ｍ＝2.276kgf/㎠×0.098MPa＝0.22MPa＜配水管の圧力0.62MPa
仮定通りの口径で適当である。